

ワーク・ライフ・バランス講座 テレワークで変わる柔軟な働き方

★ワーク・ライフ・バランスの実現に役立つ
テレワークという働き方を知っていますか？

テレワークとは パソコンやスマートフォンなどの情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。

ワーク・ライフ・バランスの必要性が叫ばれ、子育て、介護、長時間労働などこれからの時代を乗り切るための働き方のツールとして考えることができます。

働く人にやさしく企業にとっても経済的

育児休業中、様々な理由で「しっかり働きたい」と考える人やパートナーの転勤で居住場所が変わらざるを得ない人などが、テレワークによって、在宅勤務で柔軟に働き続けるという新しい選択肢が生まれます。

企業側にとっては、育児休業からの復帰後スムーズに業務を再開してもらえたり、優秀な人材の確保など様々なメリットがあげられます。

テレワークがもたらす効果

〔企業〕

- 通勤・交通費等のコスト削減
- 優秀な人材の確保や障害者の雇用
- ワーク・ライフ・バランスの維持
- 生産性の向上 等

〔労働者〕

- 通勤時間の削減
- 子育てや介護との両立
- 自由な居住地の選択
- 病気やけが対策
- 雇用の継続 等



本気でやれば在宅勤務はここまでできる

テレワークの長年の実践者である(株)ワイズスタッフ・(株)テレワークマネジメント代表取締役田澤由利さんは、初めからできないとあきらめず、「本気でやれば在宅勤務はここまでできる」と熱いメッセージを込めて講演されました。

日本女性会議2014札幌レポート

男女共同参画社会の実現に向けて課題の解決策を探る日本女性会議が10月17日〜19日に札幌市で開催されました。第31

回目の迎える今大会は、初の北海道での開催となり、全国から約1600人が参加しました。「未来の景色は、わたしたちが変える」をテーマに、全13の分科会や交流会、記念講演、シンポジウムなど多くを学ぶことができました。



《分科会・農業女子が地域を変える！》

ファームレストラン花茶代表の小栗美恵さん。講師に、ご自身の農場経営の体験についてお話しいただきました。小栗さんは高知県から親の反対を押し切って北海道に来て、紹介は「家の嫁さん」。仕事をしても小遣いはないのが当たり前。これは人生台無し！自分の人生を自分で開拓しようと考え、36歳で夫を説得して、イチゴ狩りができる農園づくりを始めました。予想以上に収入がありビックリ！次第に周りの人たちも認めてくれるようになり、現在は七戸の女性で1ヘクタールのイチゴ観光農園を経営するまでになりました。その後イチゴの高付加価値を目指し自家製アイスクリームの製造販売や、息子さんをヨーロッパに研修に出して、農業レストランの増設や親子で楽しめるそば道場を開くなど、アイデアが次々浮かび、現状に満足することなく実行に移していく話に聞

き入ってしまいました。最後に、「地域が元気になるれば子どもが元気になり、戻って来てくれる。自分が幸せでなければ子どもは幸せになれない。自分のことは自分で決められる人間になりたい。」と話され、参加者に感動と勇気を与えてくれました。

《分科会・日常から考える、防災における男女共同参画》

東日本大震災を経験し、避難所運営にも携わってこられたファシリテーターと4名の情報提供者の方々から、当時の経験を踏まえた防災に対する考えをお話しいただきました。実際の避難所では女性などのニーズが伝わらなかつたことから、男性・女性が共に運営に関わることが重要です。そのため、避難所で起こる問題について話し合い、みんなの納得を得ながら正解に近づけていく体験をしてほしいとの思いで「仙台版防災ワークショップ・みんなのための避難所作り」を作成しました。震災では「平常時にできないことは非常時にもできない」ということを学び、多様性に配慮した避難所運営は、誰もが暮らしやすいまちづくりの延長線上にあります。女性をはじめ誰もが普段から地域のことを決定する場に参画し、日ごろから積極的にまちづくりに関わることを、それがいざという時の力になることを知ってほしいとのことでした。



(帯広市男女共同参画推進員 澤木勳作・遠藤妙子)